

校長のひとり言

■「公職選挙法」改正

6月に成立した改正公職選挙法により新たな選挙権年齢が、「満20歳以上」から「満18歳以上」に引き下げられた。来年の参議院選挙（7月実施見込み）から適用されることになる。

改正については、報道各社が「18歳選挙権 高校生の政治活動容認」などの見出しで大きく取り上げた。これまでの選挙権年齢の引き下げは、70年前に25歳から20歳に変更されて以来のことである。

このことにより、本校に在籍する多くの生徒が選挙権を得ることになる。私が気になっているのは、この改正されたことを知っているのか。あるいは、どのように受け止めているかである。

もちろん、学校としては選挙権年齢や国民投票権年齢が、18歳以上に引き下げられたことに対しての主権者教育を推進するよう求めていることは了知している。

12月末までに全生徒に配布予定の副教材を活用し、これまでに文科省や県教委から発出された通知文を踏まえて、政治的教養を育む教育や政治的活動の制限等について学習する予定である。具体的には、生徒が主権者としての意識を持ち、政治的教養を育み、近い将来に実際の投票行動につながるようにすることである。また、生徒が公職選挙法に抵触することのないよう、選挙運動や政治活動等（インターネットを利用した場合も含む）について理解してもらうこととしている。

公職選挙法の改正も含めて、身の回りや国内外での出来事を気にとめ、関連する内容を調べたりすると、新たな発見や深い理解に繋がるので取り組んでほしい。

■「迎春」

師走に入り一層寒さが増してきた。3ヵ月の長期予報では暖冬のようなのだが、さすがに暖房がないと辛い。近年、エアコン使用などによる電力の消費が大きな問題になることから、エコライフとして湯たんぽの売れ行きが順調のようだ。寒い日の布団の中も有効だが、携帯用もあるので試してはどうか。

突然だが「来年の事を言えば鬼が笑う」という。このことは、「将来のことなど前もって知ることはできないのだから、あれこれ言っても仕方ない。予測できるはずのない未来の事を言うと鬼でさえおかしくてせせら笑う。」という意味。しかし、敢えて予測してほしい。

私は年度当初に「準備」について話した。明日への準備や3～4年後の自分に向けた準備。日々の生活の中での小さな準備と、時間とエネルギーが必要な準備とがあると、いくつか例を示しながら話した。私は目標達成のために、あるいは状況が急変しても対応できるよう、いろいろなことを予測しながら準備することが重要だと考えている。

願いがある。新年を迎えるまでに、来年の1月～4月（就職、進学、単位修得、卒業式、受講登録手続き、入社式、入学式等）等のために、何をどのように予測し準備しておけばよいかを家族や親しい方々の意見を聞いて参考にしてほしい。そして、新年には整理された新たな気持ちで充実した生活を送っていることを期待している。

編 | 集 | 後 | 記

毎朝今日の運勢を見る。それもテレビと新聞の2種類を。そう言うと、たいていは軽く鼻で笑われる。1億以上の人間が、12通りの1日を送るわけじゃないかと。その通りだとは思う。2つの運勢は、似ていることもあれば、正反対の日もある。長年の経験から、悪い方を頭に入れて1日を始める。昼にはすっかり忘れていたことがほとんどだ。それでも、1日を始めるにあたって何かの指針がないと不安になる。

あと10日ほどで新しい年にかわる。小さい頃は、元日にはどんなに悪天候でも家族そろって出雲大社に初詣をするのが決まりになっていた。お参りをしておみくじをひく。出雲大社のおみくじには吉とか凶とかは書いてない。第〇番と上に書いてあって、短歌が書いてある。その後に説明があるのだが、悪いときはもちろん、良ければ良くなりなげに気をつけるべきことが書いてある。それを読んで今年はずきんとしようなどと子ども心に考えていた。最近、寒さの中人混みに出るのがおっくうになり、何年もサボっている。久しぶりにきちんと初詣をして、年の初めの誓いなどを立ててみようかと考えたりしている年の瀬である。